

環境モデル都市における平成26年度の取組の評価結果

ニセコ町	人口: 4,671人、世帯数: 2,198世帯(平成26年3月末現在) 就業人口: 2,316人(平成22年度)、市内GDP: 93.2億円(平成22年度) 面積: 197.13km ² (うち森林面積132.78km ²)
-------------	---

平成26年度の取組の総括

平成26年度から5年間のアクションプランを策定するにあたり、10名の構成員からなる検討会議を4回開催した。ニセコ町として重点的に取組む内容として「観光分野での省エネ・再エネ」「家庭での草の根的な取組み」「エネルギー転換」の3つを行うこととした。CO2排出量の半分を占める観光事業者14事業者に対して、省エネなどの取組み状況をヒアリングし、アクションプラン遂行の協力を求めるとともに、27年度の省エネ設備導入調査事業の準備を行った。家庭での草の根的な取組みに関しては環境への関心が高い町民有志の取組が各地で行われているが、関心のない町民の取組みが課題である。エネルギー転換に関しては、地熱の理解を促進するとともに、町内水力発電からの電力購入を目指した協議に着手した。

A: 取組の進捗
B: 温室効果ガス削減・吸収量
C: 地域活力の創出
D: 地域のアイデア・市民力
E: 取組の普及・展開

A : 施策進捗

4

【参考指標】

計画との比較	評点	取組数	点数	評価指数	評価区分	
a)追加/前倒し/深掘り	2	2	4	算定式: ②/①*100	5	130~
b)ほぼ計画通り	1	7	7		4	110~
c)予定より遅れ/予定量に達せず	0	0	0		3	90~109
d)取り組んでいない	-1	0	0		2	70~89
計		① 9	② 11	122	1	~69

(特記事項)

- ニセコ町環境モデル都市アクションプランに掲げる9の取組において、平成26年度は2事業については実施を継続もしくは事業の着手を行い、7事業については計画通りヒアリングなどの検討を開始した。
- 公共施設に関しては平成23年度から26年度までに5施設に地中熱ヒートポンプを導入し冷暖房を行っている。いずれも町民や観光客が多く訪れる施設であり、普及啓発やCO2削減効果のほか視察者の増加など経済的な波及効果も見られる。
- 環境自治体会議ニセコ会議を開催し、環境政策に積極的に取組む自治体や関係者に対して、環境モデル都市としてニセコ町の再生可能エネルギーや水資源、資源循環の取組みを全国にアピールすることができた。
- ニセコ町のCO2排出量の半分を占める観光事業者に対して省エネの取組みのヒアリングを行い、次年度以降の取組みの準備を行った。

B : 温室効果ガスの削減・吸収量

【参考指標】

取組による効果	(t-CO2)	(前年度比)	温室効果ガスの排出量	(万t-CO2)	(前年度比)

(特記事項)

平成26年度フォローアップ報告対象外

C：地域活力の創出

4

【参考指標】

町民センター利用者数	45,264人	地下水保全条例に基づく届出	1件
有島記念館来館者数	8,200人	雪氷熱米倉庫入庫	18,832俵
ラジオニセコ出演者数	約320人	国営農地再編整備事業	開始
グループホーム利用者	9床	重点道の駅	指定
観光客数	1,593,100人		
外国人宿泊者延数	148,335人		
ニセコ観光圏	認定		

(特記事項)

- ・地中熱ヒートポンプが導入された施設はいずれも多くの町民や観光客が訪れる場所であり、特に町民センターは重油ボイラーを使用していた平成22年度と比較すると24,333人→45,264人の増加となった。
- ・平成26年7月に観光庁からニセコ町・倶知安町・蘭越町の3町がニセコ観光圏として認定された。地域内の関係者が連携し、地域の幅広い観光資源を活用して、観光客が滞在・周遊できる魅力ある観光地域づくりを行っている。
- ・観光客数は前年度比1.5%増となった。特に外国人宿泊延数は2003年から10倍以上に伸びている。国別で見ると香港、オーストラリア、台湾の順に多い。
- ・国土交通省から地域活性化の拠点を形成する重点道の駅にニセコビュープラザが選定された。
- ・平成26年度から10年間の国営農地再編整備事業が始まり、26年度は施行申請の手続きを経て、測量・設計を行った。事業開始にあたり廃校を事務所として開設した。

D：地域のアイデア・市民力

4

【参考指標】

ニセコ自然エネルギー研究会活動延参加者	50人	デマンドバス利用件数、利用者数	16,464件、20,101名
環境講演会(2回)延参加者	112人	EV充電設備新設箇所	2箇所
民間事業者向け説明会(2回)延参加者	40人		
ごみリサイクル率	53%		
まちづくり町民講座回数	7回		
まちづくり町民講座延参加者	161人		
グリーンバイク利用	908台		

(特記事項)

- ・環境への関心の高い町民有志のあつまりがニセコ自然エネルギー研究会をはじめとして、様々な場所で行われた。ニセコ自然エネルギー研究会では省エネや節電に関する講演会を開催したほか、マイクロ水力発電やオフグリッド太陽光発電の見学、住宅の断熱性能や薪ストーブの効果的な燃やし方などの勉強会を4回開催した。
- ・2月にドイツ在住の環境ジャーナリスト村上敦さんを講師に迎え、環境講演会と公開の職員研修を行った。ニセコ町の経済状況を踏まえた分析及び地域内でのエネルギー循環により、2050年までにCO2排出量86%削減することは十分達成可能との話に町民・職員の環境意識が高まった。
- ・平成27年度からの一般廃棄物の固形燃料化に向けて、事業者向け及び住民向けの説明会を開催した。リサイクル率は53%であったが、固形燃料化により92%に高まる予定。
- ・CO2排出量の多い観光事業者向けに省エネ補助事業や金融機関による融資の説明会を開催した。

E：取組の普及・展開

4

【参考指標】

環境関係視察者	50人		
環境自治体会議ニセコ会議延参加者	796人		
海外自治体幹部交流協力セミナー地方交流事業	8人		

(特記事項)

- ・5月に環境政策に積極的な自治体で構成される環境自治体会議の全国会議がニセコ町で行われ、3日間で796人の参加があった。ニセコ会議のテーマは「住民力による地域創造、そして未来再考」とし、「エネルギー」「水資源」「廃棄物」「地域資源活用型まちづくり」など10分科会それぞれで「住民力」を高めるための積極的な議論がおこなわれた。
- ・町役場への視察は42団体、301人の視察があったが、特に環境モデル都市や再生可能エネルギーに関する視察者は6団体、50人であった。地中熱ヒートポンプに関しては5施設が導入されていることや様々な施設の導入事例など他自治体の参考となっている。
- ・一般財団法人自治体国際化協会主催の海外自治体幹部交流協力セミナーによりフランスの自治体幹部に対してニセコ町の環境モデル都市などについて普及することができた。

(平成26年度の取組結果の評価する点とそれを踏まえた平成27年度以降に向けた課題)

- ・住民と行政が連携して、省エネや再生可能エネルギーに関する講演会・勉強会を、積極的に実施している。
- ・CO2総排出量が半分以上を占める、観光部門での温室効果ガス削減の具体的プロセスを考えてはどうか。
- ・温泉排湯の熱利用を促進するモデルとして、観光事業者に積極的に導入をしてもらえると、よりPR効果が見込める。